

日本災害歯科支援チーム「JDAT」をご紹介します

大規模災害が発生すると、被災した都道府県は住民の生命・安全・暮らしを守るために、保健・医療・福祉を総合的に支援・調整する機関(保健医療福祉調整本部)を設置し、さまざまな医療チームや保健福祉チームが多職種連携で支援活動を行います。

歯科関連職種によるJDAT(ジェイダット Japan Dental Alliance Team:日本災害歯科支援チーム)は、災害発生後おおむね72時間以降に被災地に入ります。被災した方々のお話をうかがいながら、「しっかり食べること」に困難を抱える方の問題解決を図り、災害関連死につながる「ごえん誤嚥性肺炎」を防ぐ活動を多職種と連携して展開します。



1 被災地で活動するチーム(抜粋)

ディーヒート DHEAT	災害時健康危機管理支援チーム	自治体に勤務する医師・保健師等が被災自治体に赴き、保健所体制の支援やマネジメント業務の補佐を行う。
ディーマット DMAT	災害派遣医療チーム	災害急性期に活動できる専門的な訓練を受けた医療チームで、真っ先に被災地に入り医療活動を開始する。
ジェーマット JMAT	日本医師会災害医療チーム	急性期医療を担うDMATから引継ぎ、中長期的に医療活動を行うとともに地域医療の再生を支援する。
ジェイダット JDAT	日本災害歯科支援チーム	応急歯科医療や口腔衛生活動をととして、被災者の健康を守り地域歯科医療の復旧を支援する。
ジェーディーエーダット JDA-DAT	日本栄養士会災害支援チーム	避難生活を食と栄養の面から支える。アレルギーや疾患、口の機能による食事内容・食形態にも対応する。
ディーパット DPAT	災害派遣精神医療チーム	災害ストレスにより拡大する精神保健医療ニーズを把握し、精神科医療の提供と精神保健活動の支援を行う。
ジェイラット JRAT	日本災害リハビリテーション支援協会	理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)他、多職種からなり、生活不活発病や災害関連死予防のためのリハビリ活動を支援する。
ディーワット DWAT	災害派遣福祉チーム	避難所等で災害時要配慮者に対し、健康調査や環境整備、福祉避難所への誘導等の福祉的支援を行う。

2 災害時にどうして歯科? どうして連携?



使い慣れた歯みがきグッズがない、断水や水場が遠い・寒いことで普段どおりの歯みがきができない
→**歯肉が腫れる、痛む**



食事は、お弁当や菓子パン類に偏り栄養バランスが乱れる
→**口内炎がでやすく治りにくい**



なるべくトイレに行かなくていいように水分摂取を控える
→**脱水症や免疫力の低下 乾燥による口内細菌増加**



入れ歯がない、壊れた等により、しっかりよく噛んで食べられない、気力が失せた
→**低栄養・体力低下**

避難生活においてこのような状態が続くと、心疾患や肺炎、エコノミークラス症候群、持病の悪化につながることがあります。JDATは多職種と連携し、被災された方の口腔を含む健康管理に努めます。

例) DWATと連携

→歯みがきグッズ提供・使い方のレクチャー、避難所環境の改善、居室場所についての配慮

例) JDA-DATと連携

→栄養に配慮し口の機能に応じた食べやすい食事の提供、口内炎への対処

例) JMATと連携

→水分補給と服薬の相談、持病の管理・健康維持とお口の衛生管理

例) JRATと連携

→入れ歯補修、および活力回復のためのリハビリ・運動支援

3 まわりの人の「ささいな変化」に気づいて つないで

被災地にはさまざまなチームが支援に入りますが、支援が必要な方すべてにアプローチできないこともあります。特に高齢の方は「困っています」と声を上げることが遠慮される方もおられます。

「お隣のおばあさん、いつもお弁当をたくさん残しているみたい」「歯みがきできているのかな?」「よくむせてる」などのちょっとした「気になること」から、支援につながることがあります。まわりの人の食・口腔に関する「ささいな変化」に気づいたら、ぜひJDATにお知らせください。

参考文献: 太田秀人, 中久木康一. JDATの成り立ちと現状、そして今後の期待. 月刊地域医学. 2025; 39(4).
公益社団法人地域医療振興協会

(公益社団法人日本歯科衛生士会 災害歯科保健委員会)